

# 2018 年度第 1 四半期 決算報告書

プレスリリース  
2018 年 5 月 4 日、パリ発



欧州景気が回復するなか国内市場部門および国際金融サービス部門が事業成長を牽引

融資残高：前年同期比 **+2.7%**

不利な為替の影響および前年同期とは対照的な欧州市場の低迷

事業部門営業収益：前年同期比 **-1.4%**

確かなコスト管理の一方で当年度に関わる税金増額のほぼ全てを当四半期に計上\*

事業部門営業費用：前年同期比 **+1.0%**

(IFRIC 第 21 号の影響を除くと横ばい)

リスク費用は依然として低水準

前年同期比 **+3.9%** (32 bp\*\*)

株主帰属純利益は底堅く推移

**15 億 6700 万ユーロ**

(一時項目および IFRIC 第 21 号の影響を除くと前年同期比 **-3.8%**)

事業成長

**2020 年度計画の軌道に沿った堅調な業績**

\* IFRIC 第 21 号「賦課金」の適用； \*\* リスク費用 ÷ 期首顧客向け融資残高 (年率換算後のベースポイント)



2018年5月3日にBNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2018年度第1四半期の業績が検討されました。

## 事業成長の一方で、不利な為替の影響および前年同期とは対照的な欧州市場の低迷

BNPパリバは当四半期に堅調な業績を収めました。欧州景気が回復するなか事業開発で成果を上げましたが、業績は、不利な為替の影響に加え、欧州市場が前年同期とは対照的に低迷したことを反映する格好となりました。

営業収益は当四半期に107億9800万ユーロとなり、前年同期と比べて4.4%の減収でした。なお、前年同期の営業収益には、新韓金融持株会社株の売却による譲渡益1億4800万ユーロが一時項目として含まれていました。

事業部門全体の営業収益は、不利な為替の影響を受けて前年同期比1.4%の減収となりました。これを部門別にみると、国内市場部門<sup>1</sup>では、順調な事業開発のプラス効果を低金利環境のマイナス影響が一部打ち消して、営業収益は前年同期比0.4%の増収となりました。国際金融サービス部門では、事業開発が業績を押し上げて、営業収益は前年同期比3.8%の増収を果たしました。一方、ホールセールバンキング事業(CIB)では、欧州市場が前年同期とは対照的に低迷したことから、前年同期と比べて9.8%の減収となりました。

営業費用は、当グループ全体で82億6000万ユーロとなり、前年同期と比べて1.7%増加しました。当四半期の営業費用には、いずれも一過性の事業改編費用および買収に関わる事業再編費用<sup>2</sup>として、2億1100万ユーロが含まれていました(前年同期は1億1000万ユーロ)。

また、当四半期の営業費用には、IFRIC解釈指針第21号「賦課金」(以下、IFRIC21)に基づき計上された11億900万ユーロ(年間の税金および拠出金のほぼ全額)が含まれています(前年同期は10億2900万ユーロ)。かかる税金および拠出金に含まれる主なものとして、単一破綻処理基金への5億7200万ユーロの拠出金が挙げられます(前年同期は4億6900万ユーロ)。

なお、一時項目(前年同期から1億100万ユーロ増加)およびIFRIC21による影響(前年同期から8000万ユーロ増加)を除くと、当四半期の営業費用はコスト抑制効果を反映して前年同期比0.6%減少しました。

事業部門全体では、営業費用は当四半期に1.0%の増加となりましたが、IFRIC21の影響を除くと前年同期から横ばいでした。これを部門別にみると、国内市場部門<sup>1</sup>では、専門的金融業務での事業開発がコスト増要因となった一方で国内リテールバンキング支店網(フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルク)の合理化が進んだことから、全体では前年同期比2.4%<sup>3</sup>の増加となりました。国際金融サービス部門では、事業成長に伴い前年同期比3.9%<sup>3</sup>増加しました。一方、CIBではコスト節減策が奏功し、前年同期比7.2%<sup>3</sup>の減少を果たしました。

これらを受けて、当グループの営業総利益は25億3800万ユーロとなり前年同期比20.1%減少しましたが、事業部門だけをとると、前年同期比7.3%の減少に留まります(IFRIC21の影響を除くと-3.7%)。

リスク費用は当四半期も低水準に留まり、6億1500万ユーロで(前年同期は5億9200万ユーロ)、顧客向け融資残高の32bp相当でした(前年同期から横ばい)。このような低水準にはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、および、イタリアで状況改善が継続していることが反映されています。

当四半期の営業利益は、グループ全体で19億2300万ユーロとなり(前年同期は25億8600万ユーロ)、前年同期と比べて25.6%の減益でした。なお、事業部門だけをとると、営業利益は前年同期比9.8%減少しました(IFRIC21の影響を除くと-5.0%)。

<sup>1</sup> 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む(PEL/CELの影響を除く)

<sup>2</sup> 特にLaSer、BGZ銀行、DABバンク、およびGeneral Electric LLDが影響

<sup>3</sup> IFRIC21の影響を除く



営業外項目は、当四半期に 3 億 3300 万ユーロの利益となりました（前年同期は 1 億 6800 万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、建物の売却による特別利益として 1 億 100 万ユーロが含まれています。

これらを受けて、当四半期の税引前利益はグループ全体で 22 億 5600 万ユーロとなり（前年同期は 27 億 5400 万ユーロ）、前年同期と比べて 18.1%減少しました。事業部門だけをとりと前年同期比 7.6%の減益でした（IFRIC21 の影響を除くと -3.6%）。

以上から、当四半期の株主帰属純利益は 15 億 6700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 17.3%の減益でした。なお、一時項目および IFRIC21<sup>1</sup>による影響を除くと、減益幅は 3.8%に縮小します。

その結果、当四半期の自己資本利益率（ROE）は、一時項目を除くベースで<sup>2</sup> 10.2%となりました。有形自己資本利益率（ROTE）は、一時項目を除くベースで<sup>2</sup> 11.9%となりました。

2018 年 3 月末現在、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率<sup>3</sup>は 11.6%となりましたが、これには IFRS 第 9 号「金融商品」の全面適用が反映されています。また、バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率<sup>4</sup>は 4.1%となり、流動性カバレッジ比率は 2018 年 3 月末現在で 120%でした。さらに、当グループの即時利用可能な余剰資金は 3210 億ユーロに上りましたが、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり純資産額は 2018 年 3 月末現在で 73.6 ユーロとなり、2008 年 12 月末からの年平均成長率（CAGR）は 5.3%に相当します。これは当グループが、景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。

当グループは、2020 年度事業改編計画を積極的に実施しています。同計画は、新たなカスタマーエクスペリエンス、デジタル変革、業務効率化などを目指す意欲的なプログラムです（当四半期のコスト節減額は 1 億 7500 万ユーロに上り、また、2017 年度初頭の計画始動からの累積で 7 億 900 万ユーロのコスト節減を達成しています）。当四半期の成果は、2020 年度計画の目標達成に向けて予想される軌道に沿ったものです。

当グループは、内部統制およびコンプライアンス体制の強化を継続しています。当グループはまた、社会にポジティブなインパクトを及ぼすよう意図された、意欲的な企業の社会・環境責任（social and environmental responsibility: SER）方針を実施中です。同方針は、社会および環境に関するイノベーション、企業の倫理的責任、および低炭素経済に重点を置いた重要なイニシアチブを伴います。

\*  
\* \*

<sup>1</sup> 一時項目による税引後ベースの影響：2018 年度第 1 四半期は -5600 万ユーロ；2017 年度第 1 四半期は +7600 万ユーロ  
IFRIC21 に基づく税金および拠出金の税引後ベースの影響：2018 年度第 1 四半期は 9 億 4600 万ユーロ；2017 年度第 1 四半期は 8 億 5600 万ユーロ

<sup>2</sup> IFRIC21 に基づく税金および拠出金は年率換算せず

<sup>3</sup> 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮した比率

<sup>4</sup> 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率



## リテールバンキングおよびサービス事業

### 国内市場部門

国内市場部門は当四半期も積極的に事業活動を展開しました。融資残高は、リテールバンキング業務および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）において貸出が順調に伸びたことから、前年同期と比べて **5.3%**増加しました。預金残高は全ての国で高い伸びを示し、当四半期に前年同期比 **6.6%**増加しました。プライベート・バンキング業務では、高水準の資金純流入（12 億ユーロ）を記録し、また Hello bank! では新規顧客の増加により成長が持続しました（当四半期の顧客獲得は 11 万人で、前年同期比 **15%**の増加）。

国内市場部門は、新たなカスタマーエクスペリエンスを開発するとともに、デジタル変革を継続しました。モバイル決済に新機能を付加することにより、モバイルの利用を加速させた結果、今ではデジタル・カスタマー・オンボーディングが新規顧客の **3 分の 1** を占めるに至りました。これを受けて国内市場部門では、モバイルのアクティブユーザー数が大幅増となり（前年同期比**+21%**）、アクティブユーザー当たりの月間平均接続数が **17** に上りました（前年同期比**+10%**）。当部門はまた、サービスを様々な形態の銀行業務に適応させています。その成果として、フランス国内では Nickel<sup>1</sup> が順調に事業を伸ばし（既に **90** 万口座を開設）、一方、ユニバーサルモバイル決済ソリューションである LyfPay は、1 日のアプリのダウンロード数が **2,500** に上り、今後フランス全国にわたり **500** を超える Casino 店舗で導入される予定です。さらに、当部門は、顧客サービスの質を高めコストを削減するために、国内支店網の簡素化と適正規模化を実施中です。

営業収益<sup>2</sup> は当四半期に **39 億 6900 万ユーロ**に上り、前年同期と比べて **0.4%**の増収となりました。その背景には、事業成長による収益へのプラス効果を、低金利環境からのマイナス影響がほぼ打ち消したことがあります。

営業費用<sup>2</sup> は、当四半期に **29 億 7100 万ユーロ**で前年同期比 **3.2%**増加しました（IFRIC21 の影響を除くと **+2.4%**）。専門的金融業務の事業開発による費用の増加傾向を、リテールバンキング支店網の合理化により平均で **0.3%**<sup>3</sup> のコスト削減を達成したことで、一部打ち消した格好となりました。

これらを受けて、営業総利益<sup>2</sup> は当四半期に **9 億 9800 万ユーロ**となり、前年同期比 **6.9%**減少しました（IFRIC21 の影響を除くと **-2.8%**）。

当四半期のリスク費用は前年同期から **15.4%**減少しましたが、とりわけ BNL bc での継続的な減少が貢献しました。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3 分の 1** を、ウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益<sup>4</sup> は当四半期に **6 億 5800 万ユーロ**となり、前年同期比 **7.0%**の減益でした。なお、IFRIC21 の影響を除くと減益幅は **1.5%**へと縮小します。

### フランス国内リテールバンキング (FRB)

フランス国内リテールバンキング (FRB) は、フランスの国内景気が回復するなか、力強い事業展開を継続しました。融資残高は、個人および法人顧客向け貸出が引き続き伸びたことから、前年同期と比べて **7.2%**増加しました。住宅ローンでは、借り換えや繰り上げ返済が **2017 年 6 月**以来、急速に減少してきましたが、当四半期もこの傾向が確認されました。預金残高は、当座預金の高い伸びが牽引し、前年同期比 **7.0%**増加しました。生命保険は順調な成果を上げて、保有契約高は **2017 年 3 月末**と比べて **3.1%**増加しました。プライベート・バンキング業務では、旺盛な資金流入を受けて運用資産残高の伸びが持続し、当四半期は **2017 年 3 月末**から **4.4%**増加しました。

<sup>1</sup> Compte-Nickel の新たな名称

<sup>2</sup> フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む

<sup>3</sup> IFRIC21 の影響を除く

<sup>4</sup> PEL/CEL の影響を除く：2018 年度第 1 四半期は +100 万ユーロ；2017 年度第 1 四半期は -200 万ユーロ



FRB はまた、引き続きデジタル変革を推し進めた結果、支払保障保険のオンライン購入を可能にしたサービスを開発するとともに、住宅ローンをリアルタイムで借り入れ可能にしました。これにより、顧客からの案件の80%超において、保険商品が容易に手に入るようになりました。これらとは別に、BNP パリバ・ファクターは業務プロセスのデジタル化を継続した結果、売掛債権の現金化をインボイスの提出から 8 時間以内に実行する能力を構築しました。それを受けて既に顧客の 80%超が電子インボイスを利用しています。

営業収益<sup>1</sup> は当四半期に 15 億 9400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.6%の減収でした。純利息収入<sup>1</sup> は、ローンの借り換えが下火になったことや繰り上げ返済違約金の効果で融資が伸びたにも関わらず、前年同期の高い水準と比べて 2.4%減少しました。一方、手数料収入<sup>1</sup> は、法人客からの金融手数料が若干減少した影響で、前年同期比 0.6%の減収となりました。

営業費用<sup>1</sup> は当四半期に 11 億 8900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.4%増加しました。なお、IFRIC21 の影響を除くと営業費用は前年同期比 0.5%の減少となりますが、これには支店網の規模の最適化および管理体制の合理化による効果が反映されています。

これらを受けて、当四半期の営業総利益<sup>1</sup> は 4 億 500 万ユーロとなり、前年同期と比べて 7.2%減少しました (IFRIC21 の影響を除くと -4.0%)。

リスク費用<sup>1</sup> は当四半期も低水準に留まり、5900 万ユーロで (前年同期は 7900 万ユーロ)、顧客向け融資残高の 13bp 相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェスル・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、FRB の税引前利益<sup>2</sup>は当四半期に 3 億 600 万ユーロとなり、前年同期比 4.1%の減益でした。なお、IFRIC21 の影響を除くと、減益幅は 0.7%へと縮小します。

## BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) において、預金残高は、当座預金が牽引し前年同期比 7.0%の急増を果たしました。オフバランス貯蓄商品は以下のように好業績を収めました：生命保険の保有契約高は前年同期比 7.1%増加し、またミューチュアルファンドの残高は 2017 年 3 月末から 8.4%増加しました。さらに、融資残高は前年同期比 1.3%減少したものの、当四半期に実施した不良債権ポートフォリオの売却<sup>3</sup>による影響を除くとほぼ横ばいでした。

BNL bc は、引き続き新たなカスタマージャーニーの開発やデジタル変革を推進した結果、中小企業 (SME) 向けのアプリである MyBiz を導入しました。これは融資の申込を含む幅広い銀行サービスへのモバイルアクセスを提供するアプリです。

当四半期の営業収益<sup>4</sup> は、前年同期と比べて 2.0%減少し 7 億 1300 万ユーロとなりました。純利息収入<sup>4</sup> は、長らく低金利環境の影響を受けて前年同期比 6.6%減少しました。一方、手数料収入<sup>4</sup> は、オフバランス貯蓄商品およびプライベート・バンキング業務の開発継続が功を奏し、前年同期比 5.9%増加しました。

営業費用<sup>4</sup> は、特定の事業戦略上の施策に的を絞った結果、当四半期に 4 億 8000 万ユーロとなり、前年同期から 2.4%増加しました (IFRIC21 の影響を除くと +1.8%)。

これらを受けて、当四半期の営業総利益<sup>4</sup> は 2 億 3300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 9.8%減少しました (IFRIC21 の影響を除くと -7.3%)。

<sup>1</sup> フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む (PEL/CEL の影響を除く)

<sup>2</sup> PEL/CEL の影響を除く：2018 年度第 1 四半期は +100 万ユーロ；2017 年度第 1 四半期は -200 万ユーロ

<sup>3</sup> 不良債権ポートフォリオを総額 8 億ユーロで売却

<sup>4</sup> イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む



当四半期のリスク費用<sup>1</sup>は融資残高の87bp相当で、前年同期から5900万ユーロ減少しました。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当四半期に5100万ユーロに上り、前年同期の税引前利益（1800万ユーロ）と比べて3倍近い水準を達成しました。これによりBNL bcは、その収益性が徐々に回復していることを確認しました。

### ベルギー国内リテールバンキング（BRB）

ベルギー国内リテールバンキング（BRB）は、引き続き積極的な事業活動を展開しました。融資残高は、法人向け貸出の順調な伸びに加え住宅ローンも伸びたことから、前年同期比5.0%増加しました。預金残高は、特に当座預金の伸びを受けて、当四半期に4.8%増加しました。また、オフバランス貯蓄商品の残高は、2017年12月末と比べて0.6%増加しました。

BRBは、デジタル変革や新たなカスタマージャーニーの開発を継続した結果、Be.Connectedを導入しました。これは新しい支店のコンセプトであり、幅広いデジタルサービスの商品群を顧客が体験できるプラットフォームです。

当四半期の営業収益<sup>2</sup>は、前年同期比0.3%の増収となり9億3400万ユーロに上りました。純利息収入<sup>2</sup>は、融資残高の増加によるプラス効果を低金利環境のマイナス影響がほぼ打ち消したものの、前年同期と比べて0.4%の増加を果たしました。手数料収入<sup>2</sup>は前年同期から安定推移しました。

営業費用<sup>2</sup>は、前年同期から1.5%増加して8億3500万ユーロとなりました。なお、IFRIC21の影響を除くと、営業費用は前年同期比1.2%減少しましたが、これにはコスト節減策の効果が反映されています（リテールバンキング支店網の最適化や管理体制の合理化など）。

これらを受けて営業総利益<sup>2</sup>は9900万ユーロとなり、前年同期と比べて9.0%減少しました。それでも、IFRIC21の影響を除くと、当四半期の営業総利益は2.6%の増加を果たしました。

リスク費用<sup>2</sup>は当四半期に極めて低水準となり、顧客向け融資残高の2bp相当でした（600万ユーロ）。また、前年同期のリスク費用は僅少でした。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRBの税引前利益は当四半期に7900万ユーロで、前年同期比17.9%の減益でした。なお、IFRIC21の影響を除くと、当四半期の税引前利益は0.7%の増益となります。

### その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング）

国内市場部門の専門的金融業務は、以下のように積極的な事業展開を継続しました。アルバルでは、ファイナンスフリートの契約台数が当四半期に7.3%増加しました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比8.2%<sup>3</sup>増加しました。個人投資家部門では、運用資産残高が2017年3月末と比べて8.0%増加しました。さらに、Nickel<sup>4</sup>では、当四半期に8万口を超える口座開設がありました。

ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB）では、融資残高が前年同期比10.0%の増加を果たしましたが、住宅ローンおよび法人向け貸出の高い伸びがこれを牽引しました。預金残高は、とりわけ法人顧客セグメントで旺盛な資金流入があったため、前年同期比12.0%増加しました。

<sup>1</sup> イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>2</sup> ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む

<sup>3</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>4</sup> Compte-Nickelの新たな名称



当四半期において、ビジネスユニット間の協力が進みました。例えば、LRB はアルバルとの協同で、個人向けに新商品であるレンタカーの長期契約を提供しました。また、Consorsbank はパーソナル・ファイナンスとともに、オンラインで消費者ローンを提供しました。

当四半期において、これら 5 つの業務部門全体の営業収益<sup>1</sup> は 7 億 2800 万ユーロに上り、前年同期比 8.0%の増収を果たしました。これには連結範囲の変更による影響と、事業開発の効果が反映されていました。

当四半期の営業費用<sup>1</sup> は、前年同期比 15.3%増加して 4 億 6700 万ユーロに上りました。これには連結範囲の変更による影響および事業開発の負担に加え、新たなデジタルサービスの開始に関わる費用が影響していましたが、とりわけアルバルおよびリーシング・ソリューションズでの負担が顕著でした。

リスク費用<sup>1</sup> は、前年同期から 2200 万ユーロ増加して 3600 万ユーロとなりました。これには特に、アルバルにおいて会計処理の変更により生じた 1400 万ユーロに上る一過性の貸倒引当金繰入額が影響していました。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 5 つの業務部門の税引前利益は、当四半期に 2 億 2200 万ユーロとなり、前年同期比 19.0%減少しました。なお、アルバルにおける一過性の貸倒引当金繰入額の影響を除くと、税引前利益の減少幅は 13.9%へと縮小します。

\*  
\* \*

<sup>1</sup> ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの 100%を含む

## 国際金融サービス部門

国際金融サービス部門では、以下のように積極的な事業活動を継続しました。融資残高は、パーソナル・ファイナンスで前年同期比 **12.1%**<sup>1</sup> 増加し、国際リテールバンキング業務<sup>2</sup> で **3.8%**<sup>1</sup> 増加しました。また、全ての貯蓄型商品および保険業務で高い資金流入がありました (+129 億ユーロ)。国際金融サービス部門は、全ての業務部門において積極的にデジタル変革を推進するとともに、新たなテクノロジーを取り入れました。

営業収益は **40 億 6000 万ユーロ** に上り、当四半期中の不利な為替の影響にも関わらず、前年同期と比べて **3.8%** の増収でした。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業収益は全ての業務部門で増収となったことから、前年同期比 **5.5%** 増加しました。

営業費用は、事業開発に伴い当四半期に **26 億 900 万ユーロ** に上り、前年同期比 **4.1%** 増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響、および IFRIC21 の影響を除くと **+5.1%**) 。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に **14 億 5100 万ユーロ** となり、前年同期と比べて **3.4%** 増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響、および IFRIC21 の影響を除くと **+6.2%**) 。

リスク費用は、当四半期に **3 億 6500 万ユーロ** で前年同期から **5000 万ユーロ** 増加しましたが、それでも依然として低水準でした。

以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当四半期に **12 億 8100 万ユーロ** に上り、前年同期と比べて **4.8%** の増益を果たしました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響、および IFRIC21 の影響を除くと **+2.8%**)。これには当部門が、利益ある事業成長を維持していることが反映されています。

## パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンスは、当四半期も活発な事業活動を展開しました。融資残高は、欧州景気の回復を受けた借入需要の高まりと新たな提携関係の効果により、当四半期に前年同期比 **12.1%**<sup>1</sup> 増加しました。当部門は、新たなパートナーシップでフランスにおいて **Hyundai** と、またポーランドにおいて **Carrefour** と提携関係を結ぶとともに、買収した **General Motors Europe** の金融部門<sup>3</sup> の統合を順調に進めました。さらに当部門は、引き続きサービスのデジタル化を拡充し新たなテクノロジーを取り入れた結果、フランス、イタリアおよびスペインで、既に契約の **72%** が電子契約によって行われています。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、融資残高の増加およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが奏功し、当四半期に **13 億 5400 万ユーロ** に上り、前年同期比 **12.7%** の増収でした (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと **+7.9%**)。とりわけ、イタリア、スペインおよびドイツでの高い伸びが牽引しました。

営業費用は、前年同期比 **14.4%** 増加して **7 億 2500 万ユーロ** となりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響、および IFRIC21 の影響を除くと、増加幅は **4.9%** に縮小しますが、これには事業開発の影響が反映されています。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に **6 億 2900 万ユーロ** となり、前年同期と比べて **10.8%** 増加しました。

リスク費用は、当四半期に **2 億 7600 万ユーロ** となり (前年同期は **2 億 4000 万ユーロ**)、顧客向け融資残高の **137bp** で低水準に留まりました (前年同期は **146bp**) 。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は、事業開発の成果を反映して当四半期に **3 億 7300 万ユーロ** に上り、前年同期と比べて **5.5%** の増益となりました。

<sup>1</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>2</sup> 欧州・地中海沿岸諸国およびバンクウエスト

<sup>3</sup> 買収手続きは 2017 年 10 月 31 日に完了



## 欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門は着実な成長を遂げました。融資残高は、トルコの積極的な販売および営業活動が成果を上げ、当部門全体では前年同期比 **4.8%**<sup>1</sup> 増加しました。預金残高は全ての地域で伸びを示し、前年同期比 **5.1%**<sup>1</sup> 増加しました。当部門は引き続きデジタルサービスを拡充しました。なかでもトルコでは **TEB** が、新型 **ATM** を通じたデジタルサービスを含む新たな支店フォーマットを徐々に導入しました。

当部門はまた、当四半期に **Raiffeisen Bank Polska**<sup>2</sup> の中核的な銀行業務を買収すると発表しました。この買収により、**BGZ BNP** パリバは、ポーランドにおいて **6** 番目に大きい規模の銀行として（**2017** 年末現在、融資および預金で、両者の市場シェアの合計は **6%**超）、その地位を強化できるでしょう。買収価格は、被買収企業の簿価の約 **87%**に相当します。また、かかる買収により、**BNP** パリバの **2020** 年度の **1** 株当たり純利益が **1%**押し上げられると予想されます。

営業収益<sup>3</sup> は、融資残高の増加を受けて当四半期に **5 億 8100 万ユーロ**に上り、前年同期と比べて **7.0%**<sup>1</sup> の増収となりました。

営業費用<sup>3</sup> は、事業開発に伴い当四半期に **4 億 1600 万ユーロ**となり、前年同期比 **4.2%**<sup>1</sup> 増加しました。

リスク費用<sup>3</sup> は穏やかな水準で安定推移し、当四半期に **7000 万ユーロ**で（前年同期は **6700 万ユーロ**）、顧客向け融資残高の **73bp**相当でした。

以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の **3 分の 1** をウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に **1 億 9100 万ユーロ**に上り、前年同期比 **17.6%**<sup>4</sup> の急増を果たしました。

## バンクウエスト

バンクウエストは、当四半期も積極的な事業展開を継続しました。預金残高は、当座預金および普通預金の高い伸びを受けて、前年同期から **9.0%**<sup>1</sup> 増加しました。融資残高は、法人および個人顧客向け貸出が順調に伸びたことから、前年同期比 **3.2%**<sup>1</sup> 増加しました（**2017** 年度第 **4** 四半期に実施した証券化の影響を除くと、前年同期比 **+4.2%**）。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は、**2018** 年 **3** 月末現在で **133 億米ドル**に上り、**2017** 年 **3** 月末の水準から **11.6%**<sup>1</sup> 増加しました。バンクウエストはまた、引き続き業務のデジタル化を拡大した結果、当四半期に **8 千口座**がオンラインで開設されました。これは前年同期の水準の **2 倍**に相当します。

営業収益<sup>5</sup> は、融資残高の増加を受けて当四半期に **6 億 8300 万ユーロ**に上り、前年同期と比べて **3.5%**<sup>1</sup> の増収となりました。

営業費用<sup>5</sup> は、コスト抑制策が奏功し、当四半期に **4 億 9500 万ユーロ**で前年同期から **1.7%**<sup>1</sup> の増加に抑えられました。その結果、**1.8**<sup>1</sup> ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

当四半期のリスク費用<sup>5</sup> は **2000 万ユーロ**となり（前年同期は **2200 万ユーロ**）、依然として低水準で顧客向け融資残高の **13bp**相当でした。

<sup>1</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>2</sup> 外貨建て小口住宅ローンポートフォリオを除き、また、その他資産の一部を除く。買収契約の調印は、契約書類の最終的な詰め、および規制当局の認可を経て、**2018** 年度第 **4** 四半期を予定

<sup>3</sup> トルコのプライベート・バンキングの **100%**を含む

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと **+27.7%**）

<sup>5</sup> 米国プライベート・バンキングの **100%**を含む



以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェスル・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウェストの税引前利益は当四半期に 1 億 6200 万ユーロに上り、前年同期比 8.9%<sup>1</sup> の増益となりました。これは、バンクウェストが着実に業績を伸ばしていることを反映しています。

## 保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門では、当四半期も事業成長が持続しました。2018 年 3 月末現在、運用資産残高<sup>2</sup> は 1 兆 510 億ユーロに達し、2017 年 3 月末の水準と比べて 0.9%増加しました。当四半期末の運用資産残高は、以下の相反する要因によって、2017 年 12 月末の水準からほぼ横ばいでした。当四半期に+129 億ユーロに上る資金純流入があったのに対し、不利な市場の展開を受けて-93 億ユーロのパフォーマンス効果に加え、米ドルの下落を始めとする為替変動の影響が -47 億ユーロに上りました。なお、資金純流入には以下が貢献しました。ウェルス・マネジメントでは旺盛な資金流入があり、特にフランスおよびアジアで高水準でした。アセット・マネジメントでも高い資金流入があり、債券ファンド、マネーマーケットファンド、および株式ファンドが恩恵を受けました。保険部門では、ユニットリンク保険へ集中的に高い資金流入がありました。

2018 年 3 月末現在、運用資産残高<sup>2</sup> の部門別内訳は以下のとおりでした：アセット・マネジメントは 4240 億ユーロ；ウェルス・マネジメントは 3620 億ユーロ；保険部門は 2370 億ユーロ；不動産管理部門は 280 億ユーロ。

保険部門は、貯蓄型および保障型の両方の保険商品で事業開発を継続した結果、フランスおよび海外市場で着実な成長を遂げました。また、当部門は以下の成果が示すように、引き続きパートナーシップの開発を推し進めました：(i) 日本では三井住友信託銀行との協業で、その支店網を活用して新たな保険商品を発売する予定です；(ii) フランスでは Matmut との新たな提携で、自動車保険および住宅保険を 2018 年 5 月に新規発売する予定です。

保険部門の営業収益は、活発な事業活動を受けて当四半期に 6 億 6100 万ユーロに上り、前年同期と比べて 10.8%の増収でした。営業費用は、事業開発に伴い 3 億 6700 万ユーロとなり、前年同期比 12.8%増加しました。以上から、関連会社の好業績を考慮した後、保険部門の税引前利益は当四半期に 3 億 6900 万ユーロに上り、前年同期と比べて 13.3%の増益を果たしました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門では、全ての業務部門で積極的な事業活動を推し進めた結果、以下の発展がありました。ウェルス・マネジメント部門は、ABN Amro のルクセンブルク事業の買収を発表しました<sup>3</sup>（プライベート・バンキングで 56 億ユーロ、生命保険で 27 億ユーロ）。アセット・マネジメント部門は引き続きデジタル変革を推進した結果、ファンド投資でブロックチェーン技術を初めて採用しました。不動産管理部門では事業成長が持続し、とりわけドイツの仲介業務で成果を上げました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当四半期に 7 億 9500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.8%の増収でした。当四半期はアセット・マネジメント部門で計上されたキャピタルゲインが減少したものの、部門全体として好業績を上げたことが営業収益に反映されています。営業費用は当四半期に 6 億 1400 万ユーロとなり、前年同期比 6.6%増加しました。なお、アセット・マネジメント部門で計上された特定の事業改編費用、および、不動産管理部門による Strutt & Parker の買収に関わる費用を除くと、当四半期の営業費用は前年同期比 4.8%の増加に留まります。リスク費用は、当四半期は僅少であったのに対し、前年同期には 1400 万ユーロの引当金戻入益が計上されました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメントの税引前利益は当四半期に 1 億 8700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 13.9%の減益でした。

\*  
\* \*

<sup>1</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと、不利な為替の影響を受けて-8.5%）

<sup>2</sup> 分配金を含む

<sup>3</sup> 買収契約の調印は、規制当局の認可を要するが、2018 年度第 3 四半期を予定



## ホールセールバンキング事業 (CIB)

ホールセールバンキング事業 (CIB) は、当四半期に、欧州の活気を欠いた市場環境のなかで事業活動を行いました。対照的に 2017 年度第 1 四半期は、市場の活況を受けて取引が大幅に増加した四半期でした。当事業部門はそれでも、引き続き顧客基盤の開発で成果を上げました。

営業収益は、当四半期に 29 億 600 万ユーロとなり、前年同期の高水準と比べて 9.8%の減収でした。なお、減収率のうち 2.9 ポイントは、不利な為替の影響に起因しています。

グローバルマーケット部門の営業収益は、当四半期に 14 億 9800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 14.6%の減収でした。当四半期の 1 月下旬に市場のボラティリティが高まりましたが、これを受けて FICC<sup>1</sup> 業務の顧客は様子見姿勢をとった一方、株式およびプライムサービス業務では顧客の取引が持ち直しました。FICC<sup>1</sup> 業務の営業収益は、当四半期に 8 億 500 万ユーロとなり、取引のボリュームを伴い極めて高水準であった前年同期と比べて 31.4%の減収でした。金利および為替業務の顧客業務は当四半期に低迷し、また、欧州のプライマリー業務の活動レベルは限定的でした。それでもグローバルマーケット部門は、南北アメリカでは良好な市場環境の恩恵を受けて好業績を収めました。当部門は、ユーロ建て全債券で第 2 位、また全国際債券で第 8 位にランクインすることにより、債券引受業務における強固な地位を確認しました。株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当四半期に 6 億 9200 万ユーロに上り、前年同期比 19.4%の急増を果たしました。これにはとりわけ、株式デリバティブで顧客の取引が回復したことが貢献しました。市場リスクを測定するバリュー・アット・リスク (VaR) は、当四半期も依然として低水準に留まり 2500 万ユーロでした。

グローバルマーケット部門はまた、引き続きデジタル変革を推進した結果、フロントオフィス・チームの全体にわたり Symphony のコミュニケーションおよびワークフロー自動化ツールを導入しました。さらに、Smart Derivatives、Cortex、および Centric のデジタルプラットフォームの開発でも成果を上げました。

セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、活発な営業活動および新規獲得マンドレートからの増収効果で、当四半期に 5 億 500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 5.7%の増収となりました。これを受けて、カストディ業務の受託資産および管理資産残高は 2017 年 3 月末比で 5.3%増加し、また、取引件数は前年同期比 5.1%増加しました。当部門は引き続き大型マンドレート (例: Intermediate Capital Group) を獲得するとともに、米国において Janus Henderson Investors との重大な戦略的パートナーシップの締結手続きを完了しました (カストディ資産 1380 億米ドル)。セキュリティーズ・サービス部門はまた、イタリアで Banco BPM のデポジタリーバンク (受託銀行) 業務の買収<sup>2</sup> を当四半期に発表しました。さらに、当部門はグローバルマーケット部門との協働で共通サービスの開発を継続しましたが、とりわけデリバティブや為替取引の執行および差額決済、担保管理などで成果を上げました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期に 9 億 400 万ユーロとなり、不利な為替の影響を受けて前年同期比 8.8%の減収でした (減収率のうち為替の影響は 5.7 ポイント)。なお、前年同期の営業収益には高水準の手数料収入が含まれていました。当四半期の営業収益を地域別にみると、南北アメリカにおいて、為替の影響に加え、非在来型石油・ガスに関わるプロジェクトへの資金供給を停止したことが減収要因となりました。欧州では若干の減収となった一方、アジア太平洋では増収を果たしました。コーポレートバンキング部門は、欧州およびアジアにおいて、トランザクションバンキング業務 (キャッシュマネジメントおよびトレードファイナンス) で高い成果を上げました。それを受けて当部門は、欧州において大口法人業務で地位を強化した結果、キャッシュマネジメント業務で 41%の市場浸透率を達成し、さらにコーポレートバンキング業務では浸透率が 65%に上りました<sup>3</sup>。融資残高は、当四半期に 1274 億ユーロで前年同期比 1.4%<sup>4</sup> 増加しました。一方、預金残高は 1232 億ユーロで前年同期比 3.2%<sup>4</sup> 減少しました。当部門は、シンジケートローンで第 2 位となり、また EMEA<sup>5</sup> 地域におけるエクイティリンク債の引受でも第 2 位につけ、業界における強固な地位を確認しました。

<sup>1</sup> Fixed Income, Currencies and Commodities (債券・通貨・コモディティ)

<sup>2</sup> 契約調印は 2018 年第 2 四半期を予定

<sup>3</sup> 出所: Greenwich Share Leader 2018 年サーベイ

<sup>4</sup> 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

<sup>5</sup> Europe, Middle East and Africa (欧州、中東およびアフリカ)



CIB の営業費用は当四半期に 23 億 8900 万ユーロとなり、前年同期から 4.7%減少しました（IFRIC21<sup>1</sup>の影響を除くと-7.2%）。当四半期の営業費用の減少にはコスト節減計画が奏功していますが、同計画によって 2016 年の始動以来、既に 2 億 9700 万ユーロの費用が節減されています。CIB は当四半期も引き続きコスト節減策を実施しましたが、とりわけ、進行中の 200 に上るプロセスの自動化、および 3 つのエンドツーエンド・プロジェクト（与信審査プロセス、為替・キャッシュ、およびクライアント・オンボーディング）の実施に重点を置きました。

これらを受けて、CIB の営業総利益は当四半期に 5 億 1700 万ユーロとなり、前年同期比 27.8%減少しました（IFRIC21 の影響を除くと -14.4%）。

リスク費用に関しては、貸倒引当金戻入益が繰入額を上回ったため、CIB は当四半期に純額で 3100 万ユーロの引当金戻入益を計上しました（前年同期は純額で 5400 万ユーロの引当金戻入益を計上）。業務部門別にみると、グローバルマーケット部門では純額で 2800 万ユーロの引当金戻入益となり（前年同期は純額で 300 万ユーロの引当金繰入額を計上）、コーポレートバンキング部門では引当金繰入額と戻入益がほぼ相殺されて僅少でした（前年同期は純額で 5700 万ユーロの戻入益を計上）。

以上から、CIB の税引前利益は当四半期に 5 億 5800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 28.2%の減益でした（IFRIC21 の影響を除くと -15.3%）。なお、前年同期には欧州で FICC 業務が、活況を呈した市場の恩恵を受けて税引前利益に貢献しました。

\*  
\* \*

## コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は当四半期に 1100 万ユーロとなり、これに対し前年同期の営業収益は 3 億 5800 万ユーロでした。当四半期の営業収益には、プリンシパル・インベストメンツからの収益貢献が、高水準であった前年同期と比べて減少したことが反映されていました。なお、前年同期の営業収益には、新韓金融持株会社株式の売却による譲渡益 1 億 4800 万ユーロも含まれていました。

営業費用は当四半期に 3 億 7400 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億 800 万ユーロでした。当四半期の営業費用には、一過性の費用として、事業改編費用が 2 億 600 万ユーロ（前年同期は 9000 万ユーロ）、また買収に関わる事業再編費用<sup>2</sup>が 500 万ユーロ含まれていました（前年同期は 2000 万ユーロ）。

リスク費用は当四半期に 1100 万ユーロとなりました（前年同期も 1100 万ユーロ）。

営業外項目は当四半期に 1 億 3200 万ユーロの利益となりました（前年同期は 1100 万ユーロの利益）。当四半期の営業外項目には、建物の売却による特別利益として 1 億 100 万ユーロが含まれています。

以上から、コーポレート・センターの税引前利益は当四半期に 2 億 4200 万ユーロの損失となりましたが、これに対し前年同期は 4900 万ユーロの利益でした。

\*  
\* \*

<sup>1</sup> IFRIC21 に基づく税金および拠出金のうち CIB の負担額：2018 年度第 1 四半期は 4 億 8200 万ユーロ；2017 年度第 1 四半期は 4 億 5100 万ユーロ

<sup>2</sup> 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

## 財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

改訂 IFRS 第 9 号の適用による影響は限定的に留まり、また同会計基準の適用開始日である 2018 年 1 月 1 日に、その影響は以下のように全面的に反映されました：再評価前株主資本<sup>1</sup> への影響は -11 億ユーロ（再評価後株主資本<sup>2</sup> への影響は-25 億ユーロ）；バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率<sup>3</sup> に対する影響は-10bp 以内。また、銀行監督当局の新たな一般要件は、解約不能の支払い義務の金額をプルデンシャル基準に基づく資本から控除することを求めています。エクイティ Tier 1 比率は 2018 年 1 月 1 日現在でこれを反映しており、その影響は-10bp 以内でした。これらを受けて、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率<sup>3</sup> は、2018 年 1 月 1 日現在、暫定値で 11.6%となりました。

また、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率は 2018 年 3 月末時点でも 11.6%でしたが、これには主に以下の要因が作用していました：配当性向 50%を前提とした当四半期の純利益（+10bp）；為替変動の影響を除くリスク加重資産の増加（-10bp）。なお、為替が当四半期のエクイティ Tier 1 比率に及ぼした影響は全体として軽微でした。

バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率<sup>4</sup> は Tier 1 資本全部に基づき算定されますが、同比率は 2018 年 3 月末現在で 4.1%となりました。

流動性カバレッジ比率は、2018 年 3 月末現在で 120%でした。

当グループの即時利用可能な余剰資金は、2018 年 3 月末現在で 3210 億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で、1 年超の余裕資金があることを意味します。

当グループの自己資本に関わる比率の推移は、当グループが規制枠組みのなかで、規律をもってバランスシートを管理する能力を有していることを証明しています。

\*  
\* \*

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は次のように述べています。

*「BNP パリバは、当四半期に株主帰属純利益で 16 億ユーロを上げる着実な業績を収めました。*

*欧州景気の回復を受けて当グループの事業は成長を継続し、またグループは競争力を高めました。営業費用は十分に抑制されるとともに、リスク費用は依然として低水準に留まりました。*

*当四半期の欧州市場が 2017 年第 1 四半期と比べて活気を欠いた環境であったとしても、当四半期の業績は 2020 年度計画の軌道や目標達成に沿ったものとなりました。」*

\*  
\* \*

<sup>1</sup> 評価性引当金を除く株主資本

<sup>2</sup> 評価性引当金を含む株主資本

<sup>3</sup> 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮した比率。また、規則（EU）No 575/2013 第 26 条第 2 項に従う

<sup>4</sup> 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率



## 連結損益計算書

(単位：百万ユーロ)	1Q18	1Q17	1Q18 / 1Q17	4Q17	1Q18 / 4Q17
営業収益	10,798	11,297	-4.4%	10,532	+2.5%
営業費用および減価償却費	-8,260	-8,119	+1.7%	-7,621	+8.4%
営業総利益	2,538	3,178	-20.1%	2,911	-12.8%
リスク費用	-615	-592	+3.9%	-985	-37.6%
営業利益	1,923	2,586	-25.6%	1,926	-0.2%
持分法適用会社投資損益	162	165	-1.8%	175	-7.4%
その他営業外項目	171	3	n.s.	21	n.s.
営業外項目	333	168	+98.2%	196	+69.9%
税引前利益	2,256	2,754	-18.1%	2,122	+6.3%
法人税	-558	-752	-25.8%	-580	-3.8%
少数株主帰属純利益	-131	-108	+21.3%	-116	+12.9%
株主帰属純利益	1,567	1,894	-17.3%	1,426	+9.9%
コスト/インカム率	76.5%	71.9%	+4.6 pt	72.4%	+4.1 pt

BNP パリバの2018年度第1四半期に関する財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com> の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典 L.451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNP パリバが公表しています。



## 2018 年度第 1 四半期 - コア事業別業績

		リテール・バンキング事業 およびサービス事業		ホールセール バンキング 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計
		国内市場 部門	国際金融 サービス部門				
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		3,820	4,060	2,906	10,787	11	10,798
	対前年同期比	+0.3%	+3.8%	-9.8%	-1.4%	-96.8%	-4.4%
	対前四半期比	+1.4%	-1.6%	+10.7%	+2.5%	-2.6%	+2.5%
営業費用および減価償却費		-2,888	-2,609	-2,389	-7,886	-374	-8,260
	対前年同期比	+3.2%	+4.1%	-4.7%	+1.0%	+2.14%	+1.7%
	対前四半期比	+1.8%	+3.6%	+26.9%	+12.9%	-4.13%	+8.4%
営業総利益		933	1,451	517	2,901	-363	2,538
	対前年同期比	-7.5%	+3.4%	-27.8%	-7.3%	n.s.	-20.1%
	対前四半期比	-2.13%	-9.7%	-30.5%	-18.0%	-42.0%	-12.8%
リスク費用		-269	-365	31	-604	-11	-615
	対前年同期比	-15.7%	+16.0%	-42.8%	+4.0%	-1.3%	+3.9%
	対前四半期比	-27.0%	+3.4%	n.s.	-38.8%	n.s.	-37.6%
営業利益		664	1,086	548	2,297	-374	1,923
	対前年同期比	-3.7%	-0.3%	-28.9%	-9.8%	n.s.	-25.6%
	対前四半期比	-18.7%	-13.4%	+14.2%	-9.9%	-40.1%	-0.2%
持分法適用会社投資損益		-6	137	9	140	22	162
その他営業外項目		1	58	2	61	110	171
税引前利益		659	1,281	558	2,498	-242	2,256
	対前年同期比	-6.5%	+4.8%	-28.2%	-7.6%	n.s.	-18.1%
	対前四半期比	-20.1%	-11.6%	+13.8%	-9.6%	-62.2%	+6.3%

		リテール・バンキング事業 およびサービス事業		ホールセール バンキング 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計
		国内市場 部門	国際金融 サービス部門				
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		3,820	4,060	2,906	10,787	11	10,798
	前年同期	3,807	3,909	3,223	10,939	358	11,297
	前四半期	3,768	4,126	2,626	10,520	12	10,532
営業費用および減価償却費		-2,888	-2,609	-2,389	-7,886	-374	-8,260
	前年同期	-2,799	-2,506	-2,506	-7,811	-308	-8,119
	前四半期	-2,582	-2,519	-1,883	-6,984	-637	-7,621
営業総利益		933	1,451	517	2,901	-363	2,538
	前年同期	1,008	1,404	717	3,129	49	3,178
	前四半期	1,185	1,608	744	3,536	-625	2,911
リスク費用		-269	-365	31	-604	-11	-615
	前年同期	-319	-315	54	-581	-11	-592
	前四半期	-369	-353	-264	-986	1	-985
営業利益		664	1,086	548	2,297	-374	1,923
	前年同期	689	1,089	770	2,548	38	2,586
	前四半期	817	1,254	480	2,551	-625	1,926
持分法適用会社投資損益		-6	137	9	140	22	162
	前年同期	11	128	8	146	19	165
	前四半期	7	141	13	160	15	175
その他営業外項目		1	58	2	61	110	171
	前年同期	5	6	0	11	-8	3
	前四半期	1	54	-1	54	-33	21
税引前利益		659	1,281	558	2,498	-242	2,256
	前年同期	705	1,222	778	2,705	49	2,754
	前四半期	825	1,449	491	2,764	-642	2,122
法人税							-558
少数株主帰属純利益							-131
株主帰属純利益							1,567

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
グループ					
営業収益	10,798	10,532	10,394	10,938	11,297
営業費用および減価償却費	-8,260	-7,621	-7,133	-7,071	-8,119
営業総利益	2,538	2,911	3,261	3,867	3,178
リスク費用	-615	-985	-668	-662	-592
営業利益	1,923	1,926	2,593	3,205	2,586
持分法適用会社投資損益	162	175	150	223	165
その他営業外項目	171	21	230	33	3
税引前利益	2,256	2,122	2,973	3,461	2,754
法人税	-558	-580	-828	-943	-752
少数株主帰属純利益	-131	-116	-102	-122	-108
株主帰属純利益	1,567	1,426	2,043	2,396	1,894
コスト/インカム率	76.5%	72.4%	68.6%	64.6%	71.9%



	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>リテールバンキングおよびサービス事業</b>	<b>PEL/CELの影響を除く</b>				
営業収益	7,879	7,881	7,707	7,737	7,719
営業費用および減価償却費	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
<b>営業総利益</b>	<b>2,383</b>	<b>2,780</b>	<b>2,853</b>	<b>2,953</b>	<b>2,414</b>
リスク費用	-634	-722	-662	-686	-634
<b>営業利益</b>	<b>1,748</b>	<b>2,058</b>	<b>2,191</b>	<b>2,267</b>	<b>1,780</b>
持分法適用会社投資損益	132	147	162	174	139
その他営業外項目	59	55	361	16	11
<b>税引前利益</b>	<b>1,939</b>	<b>2,261</b>	<b>2,714</b>	<b>2,457</b>	<b>1,930</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>リテールバンキングおよびサービス事業</b>					
営業収益	7,880	7,894	7,714	7,738	7,717
営業費用および減価償却費	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
<b>営業総利益</b>	<b>2,384</b>	<b>2,793</b>	<b>2,860</b>	<b>2,955</b>	<b>2,412</b>
リスク費用	-634	-722	-662	-686	-634
<b>営業利益</b>	<b>1,749</b>	<b>2,071</b>	<b>2,198</b>	<b>2,269</b>	<b>1,778</b>
持分法適用会社投資損益	132	147	162	174	139
その他営業外項目	59	55	361	16	11
<b>税引前利益</b>	<b>1,940</b>	<b>2,273</b>	<b>2,721</b>	<b>2,458</b>	<b>1,927</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6

(単位：百万ユーロ)

**国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの 100%を含む) \***
**PEL/CELの影響を除く**

営業収益	3,969	3,897	3,918	3,951	3,952
営業費用および減価償却費	-2,971	-2,653	-2,599	-2,488	-2,880
<b>営業総利益</b>	<b>998</b>	<b>1,244</b>	<b>1,319</b>	<b>1,463</b>	<b>1,072</b>
リスク費用	-270	-370	-311	-355	-319
<b>営業利益</b>	<b>727</b>	<b>874</b>	<b>1,008</b>	<b>1,108</b>	<b>753</b>
持分法適用会社投資損益	-6	7	23	21	11
その他営業外項目	1	1	3	1	5
<b>税引前利益</b>	<b>723</b>	<b>882</b>	<b>1,034</b>	<b>1,130</b>	<b>769</b>
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-65	-70	-64	-78	-61
<b>国内市場部門税引前利益</b>	<b>658</b>	<b>812</b>	<b>970</b>	<b>1,052</b>	<b>707</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8

(単位：百万ユーロ)

**国内市場部門 (フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3を含む)**

営業収益	3,820	3,768	3,786	3,803	3,807
営業費用および減価償却費	-2,888	-2,582	-2,524	-2,417	-2,799
<b>営業総利益</b>	<b>933</b>	<b>1,185</b>	<b>1,262</b>	<b>1,387</b>	<b>1,008</b>
リスク費用	-269	-369	-310	-356	-319
<b>営業利益</b>	<b>664</b>	<b>817</b>	<b>952</b>	<b>1,031</b>	<b>689</b>
持分法適用会社投資損益	-6	7	22	21	11
その他営業外項目	1	1	3	1	5
<b>税引前利益</b>	<b>659</b>	<b>825</b>	<b>977</b>	<b>1,053</b>	<b>705</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100%を含む



(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテール・バンキング(フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む)*					
<b>営業収益</b>	<b>1,595</b>	<b>1,554</b>	<b>1,592</b>	<b>1,607</b>	<b>1,618</b>
うち受取利息純額	891	888	904	886	909
うち手数料	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
<b>営業総利益</b>	<b>406</b>	<b>379</b>	<b>409</b>	<b>492</b>	<b>434</b>
リスク費用	-59	-107	-65	-80	-79
<b>営業利益</b>	<b>347</b>	<b>272</b>	<b>344</b>	<b>412</b>	<b>355</b>
営業外項目	0	0	1	0	0
<b>税引前利益</b>	<b>346</b>	<b>272</b>	<b>344</b>	<b>412</b>	<b>356</b>
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-39	-38	-36	-40	-39
<b>フランス国内リテールバンキング税引前利益</b>	<b>307</b>	<b>234</b>	<b>309</b>	<b>372</b>	<b>316</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテール・バンキング(フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む)* PEL/CELの影響を除く					
<b>営業収益</b>	<b>1,594</b>	<b>1,541</b>	<b>1,585</b>	<b>1,606</b>	<b>1,620</b>
うち受取利息純額	890	876	897	885	912
うち手数料	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
<b>営業総利益</b>	<b>405</b>	<b>366</b>	<b>402</b>	<b>490</b>	<b>436</b>
リスク費用	-59	-107	-65	-80	-79
<b>営業利益</b>	<b>346</b>	<b>259</b>	<b>337</b>	<b>411</b>	<b>358</b>
営業外項目	0	0	1	0	0
<b>税引前利益</b>	<b>345</b>	<b>259</b>	<b>337</b>	<b>411</b>	<b>358</b>
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-39	-38	-36	-40	-39
<b>フランス国内リテールバンキング税引前利益</b>	<b>306</b>	<b>221</b>	<b>302</b>	<b>371</b>	<b>319</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテール・バンキング(フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む)					
<b>営業収益</b>	<b>1,517</b>	<b>1,481</b>	<b>1,518</b>	<b>1,531</b>	<b>1,541</b>
営業費用および減価償却費	-1,151	-1,140	-1,145	-1,079	-1,146
<b>営業総利益</b>	<b>367</b>	<b>341</b>	<b>374</b>	<b>452</b>	<b>395</b>
リスク費用	-59	-107	-65	-80	-79
<b>営業利益</b>	<b>307</b>	<b>234</b>	<b>308</b>	<b>372</b>	<b>316</b>
営業外項目	0	0	0	0	0
<b>税引前利益</b>	<b>307</b>	<b>234</b>	<b>309</b>	<b>372</b>	<b>316</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

\*\* PEL/CEL に関わる引当金：当該引当金は、フランス国内リテールバンキングの営業収益に影響を及ぼすものであり、住宅積立預金口座 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅預金口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から生じるリスクについて、口座の存続期間全体にわたり設定されている。

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
PEL/CELの影響	1	13	7	1	-2

(単位: 百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
BNLバンカ・コメルシアール (イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む) *					
営業収益	713	732	719	729	727
営業費用および減価償却費	-480	-457	-445	-430	-469
営業総利益	233	275	274	299	258
リスク費用	-169	-218	-203	-222	-228
営業利益	63	57	71	77	30
営業外項目	0	0	0	0	0
税引前利益	63	57	71	77	30
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-12	-11	-9	-12	-12
BNLバンカ・コメルシアール税引前利益	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7

(単位: 百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
BNLバンカ・コメルシアール (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む) *					
営業収益	691	710	699	707	706
営業費用および減価償却費	-470	-447	-434	-420	-460
営業総利益	221	263	265	287	247
リスク費用	-170	-217	-203	-222	-228
営業利益	51	46	62	65	18
営業外項目	0	0	0	0	0
税引前利益	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7

(単位: 百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む) *					
営業収益	934	894	921	930	931
営業費用および減価償却費	-835	-601	-570	-560	-823
営業総利益	99	293	351	370	108
リスク費用	-6	-15	-23	-28	1
営業利益	93	278	328	343	109
持分法適用会社投資損益	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	1	1	3	2	0
税引前利益	92	281	347	351	106
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-13	-19	-18	-25	-10
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1

(単位: 百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの 2/3を含む)					
営業収益	887	849	879	882	889
営業費用および減価償却費	-803	-577	-547	-537	-790
営業総利益	85	272	332	346	99
リスク費用	-4	-14	-23	-28	1
営業利益	80	259	309	317	99
持分法適用会社投資損益	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	1	1	3	2	0
税引前利益	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100%を含む



(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む)*					
営業収益	728	730	692	686	674
営業費用および減価償却費	-467	-420	-400	-382	-405
営業総利益	261	310	292	304	269
リスク費用	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	225	279	273	278	256
持分法適用会社投資損益	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	-1	0	0	0	5
税引前利益	223	284	277	292	274
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	-1	-1
その他国内市場部門税引前利益	222	283	277	291	274
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む)					
営業収益	725	727	690	683	671
営業費用および減価償却費	-464	-419	-399	-381	-403
営業総利益	260	309	291	303	269
リスク費用	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	225	278	272	277	255
持分法適用会社投資損益	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	-1	0	0	0	5
税引前利益	222	283	277	291	274
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>国際金融サービス部門</b>					
営業収益	4,060	4,126	3,928	3,935	3,909
営業費用および減価償却費	-2,609	-2,519	-2,330	-2,367	-2,506
<b>営業総利益</b>	<b>1,451</b>	<b>1,608</b>	<b>1,598</b>	<b>1,568</b>	<b>1,404</b>
リスク費用	-365	-353	-352	-331	-315
<b>営業利益</b>	<b>1,086</b>	<b>1,254</b>	<b>1,246</b>	<b>1,237</b>	<b>1,089</b>
持分法適用会社投資損益	137	141	140	153	128
その他営業外項目	58	54	358	14	6
<b>税引前利益</b>	<b>1,281</b>	<b>1,449</b>	<b>1,744</b>	<b>1,405</b>	<b>1,222</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	28.3	26.8	26.5	26.6	26.7

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>パーソナル・ファイナンス</b>					
営業収益	1,354	1,280	1,222	1,220	1,201
営業費用および減価償却費	-725	-639	-575	-579	-634
<b>営業総利益</b>	<b>629</b>	<b>641</b>	<b>647</b>	<b>641</b>	<b>568</b>
リスク費用	-276	-271	-273	-225	-240
<b>営業利益</b>	<b>353</b>	<b>369</b>	<b>375</b>	<b>415</b>	<b>328</b>
持分法適用会社投資損益	15	19	21	30	20
その他営業外項目	4	0	24	0	5
<b>税引前利益</b>	<b>373</b>	<b>389</b>	<b>420</b>	<b>445</b>	<b>353</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	7.0	5.8	5.5	5.4	5.3

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む) *</b>					
営業収益	581	581	573	590	592
営業費用および減価償却費	-416	-414	-403	-420	-424
<b>営業総利益</b>	<b>165</b>	<b>167</b>	<b>170</b>	<b>170</b>	<b>168</b>
リスク費用	-70	-62	-60	-70	-67
<b>営業利益</b>	<b>96</b>	<b>105</b>	<b>110</b>	<b>100</b>	<b>101</b>
持分法適用会社投資損益	41	49	47	53	48
その他営業外項目	54	3	1	-1	0
<b>税引前利益</b>	<b>191</b>	<b>158</b>	<b>159</b>	<b>152</b>	<b>150</b>
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	0	-1	-1
<b>欧州・地中海沿岸諸国税引前利益</b>	<b>191</b>	<b>157</b>	<b>158</b>	<b>151</b>	<b>149</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0

(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む)</b>					
営業収益	579	579	571	588	590
営業費用および減価償却費	-415	-413	-401	-419	-423
<b>営業総利益</b>	<b>164</b>	<b>167</b>	<b>170</b>	<b>169</b>	<b>167</b>
リスク費用	-70	-62	-60	-70	-67
<b>営業利益</b>	<b>95</b>	<b>105</b>	<b>110</b>	<b>99</b>	<b>100</b>
持分法適用会社投資損益	41	49	47	53	48
その他営業外項目	54	3	1	-1	0
<b>税引前利益</b>	<b>191</b>	<b>157</b>	<b>158</b>	<b>151</b>	<b>149</b>
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウェスト (米国国内プライベート・バンキングの100%を含む) *					
営業収益	683	738	734	762	761
営業費用および減価償却費	-495	-483	-482	-513	-556
営業総利益	188	255	251	249	205
リスク費用	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	168	235	219	211	183
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0
その他営業外項目	0	1	3	1	-1
税引前利益	168	236	222	212	182
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-6	-6	-5	-5	-5
バンクウェスト税引前利益	162	230	217	206	177
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウェスト (米国国内プライベート・バンキングの2/3を含む)					
営業収益	669	724	720	748	748
営業費用および減価償却費	-487	-475	-474	-505	-548
営業総利益	182	249	246	243	200
リスク費用	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	162	229	214	206	178
営業外項目	0	1	3	1	-1
税引前利益	162	230	217	206	177
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
保険部門					
営業収益	661	636	662	619	597
営業費用および減価償却費	-367	-317	-311	-297	-326
営業総利益	294	319	351	322	271
リスク費用	0	5	1	-1	-1
営業利益	294	324	352	321	271
持分法適用会社投資損益	75	53	63	55	54
その他営業外項目	0	49	325	0	1
税引前利益	369	425	740	376	326
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	8.7	7.8	7.7	7.7	7.8

(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ウェルス&アセット・マネジメント部門					
営業収益	795	907	753	760	773
営業費用および減価償却費	-614	-675	-569	-567	-576
営業総利益	181	233	183	193	198
リスク費用	0	-5	12	4	14
営業利益	181	228	195	197	212
持分法適用会社投資損益	5	19	8	15	5
その他営業外項目	0	1	5	14	0
税引前利益	187	248	208	226	217
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
<b>ホールセールバンキング事業 (CIB)</b>					
営業収益	2,906	2,626	2,658	3,197	3,223
営業費用および減価償却費	-2,389	-1,883	-1,897	-1,988	-2,506
営業総利益	517	744	761	1,209	717
リスク費用	31	-264	10	118	54
営業利益	548	480	772	1,328	770
持分法適用会社投資損益	9	13	-2	5	8
その他営業外項目	2	-1	8	15	0
税引前利益	558	491	778	1,349	778
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	19.9	21.1	21.4	21.9	22.1
<b>コーポレート・バンキング</b>					
(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	904	1,050	948	1,176	991
営業費用および減価償却費	-691	-603	-546	-590	-691
営業総利益	213	447	402	586	299
リスク費用	1	-209	4	78	57
営業利益	214	238	407	664	356
営業外項目	9	5	6	19	7
税引前利益	223	243	413	683	364
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	11.9	12.4	12.5	12.7	12.6
<b>グローバル・マーケット部門</b>					
(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	1,498	1,073	1,234	1,523	1,754
うちフィクスト・インカム、為替およびコモディティ業務	805	592	801	883	1,174
うち株式およびプライム・サービス業務	692	482	433	640	580
営業費用および減価償却費	-1,275	-875	-958	-997	-1,424
営業総利益	223	198	276	526	330
リスク費用	28	-57	6	39	-3
営業利益	251	142	281	565	327
持分法適用会社投資損益	1	5	-6	-1	0
その他営業外項目	0	1	6	3	0
税引前利益	252	147	281	567	326
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	7.1	7.8	8.0	8.4	8.7
<b>証券管理部門</b>					
(単位：百万ユーロ)	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	505	503	476	498	478
営業費用および減価償却費	-423	-405	-392	-400	-390
営業総利益	82	98	84	97	87
リスク費用	1	2	0	1	0
営業利益	83	100	84	99	87
営業外項目	0	0	0	0	0
税引前利益	83	100	84	99	88
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)

	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
コーポレート・センター					
<b>営業収益</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>22</b>	<b>3</b>	<b>358</b>
営業費用および減価償却費	-374	-637	-382	-300	-308
うち事業再編および変革費用	-211	-456	-222	-168	-110
<b>営業総利益</b>	<b>-363</b>	<b>-625</b>	<b>-361</b>	<b>-297</b>	<b>49</b>
リスク費用	-11	1	-16	-94	-11
<b>営業利益</b>	<b>-374</b>	<b>-625</b>	<b>-377</b>	<b>-391</b>	<b>38</b>
持分法適用会社投資損益	22	15	-10	44	19
その他営業外項目	110	-33	-139	2	-8
<b>税引前利益</b>	<b>-242</b>	<b>-642</b>	<b>-525</b>	<b>-346</b>	<b>49</b>





## 連結貸借対照表 — 2018年3月31日現在

(単位: 百万ユーロ)	2018年3月31日	2018年1月1日
<b>資産</b>		
現金および中央銀行預け金	210,134	178,433
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品		
トレーディング目的有価証券	200,535	130,521
貸出金および売戻契約	234,170	144,948
デリバティブ金融商品	226,162	229,896
ヘッジ目的デリバティブ	11,727	13,721
株主資本を通じて公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	54,455	57,151
資本性金融商品	2,424	2,330
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	23,900	20,356
顧客貸出金および債権	734,053	731,219
負債性金融商品	67,085	65,971
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	2,807	3,064
保険業務に係る金融投資	231,016	227,712
当期および繰延税金資産	7,231	7,369
未収収益およびその他の資産	100,335	92,961
持分法投資	5,897	6,221
投資不動産	879	852
有形固定資産	24,885	24,148
無形固定資産	3,340	3,327
のれん	9,482	9,571
<b>資産合計</b>	<b>2,150,517</b>	<b>1,949,771</b>
<b>負債</b>		
中央銀行預金	445	1,471
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品		
有価証券	101,480	67,087
預金および買戻契約	279,360	174,645
発行済負債証券	54,191	50,490
デリバティブ金融商品	219,205	227,644
ヘッジ目的デリバティブ	14,145	15,682
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	100,623	76,503
顧客預金	789,912	760,941
負債証券	153,981	148,156
劣後債	16,523	15,951
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	2,226	2,372
当期および繰延税金負債	2,128	2,234
未払費用およびその他の負債	88,727	80,472
保険会社の責任準備金	211,431	210,494
偶発債務等引当金	10,814	11,084
<b>負債合計</b>	<b>2,045,191</b>	<b>1,845,226</b>
<b>連結資本</b>		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	97,543	89,893
親会社株主帰属当期純利益	1,567	7,759
<b>資本金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計</b>	<b>99,110</b>	<b>97,652</b>
未実現損益または繰越損益	992	1,767
<b>親会社株主資本</b>	<b>100,102</b>	<b>99,419</b>
少数株主持分	5,224	5,126
<b>連結資本合計</b>	<b>105,326</b>	<b>104,545</b>
<b>負債および資本合計</b>	<b>2,150,517</b>	<b>1,949,771</b>



2018年1月1日をもって、BNPパリバ・グループは新しい会計基準であるIFRS第9号およびIFRS第15号の適用を開始することにより、以下のように財務諸表の表示方法を変更した。

- 保険会社の金融商品については、2020年12月31日までは引き続きIAS第39号に基づき認識されるが、貸借対照表上で独立の項目として集計した。
- 保険会社以外の会社が保有する金融商品は、IFRS第9号に基づき分類し、測定した。
- これらに加え、以下の変更を実施した。
  - o 証券取引は、以前は取引日に認識していたが、現在は決済日に認識している。かかる決済日基準は、流動性比率に適用される規則と整合する。
  - o 「金融機関」の定義について、財務諸表上と規制当局に対する報告書との間で統一するために、一部のカウンターパーティに対する残高は、「金融機関貸出金および債権」から「顧客貸出金および債権」へと再分類した。
  - o かつて「貸出金および未収収益」に含めて認識していた有価証券は、「償却原価で測定する金融商品」の中の「負債性金融商品」に振り替えた。また、以前の「純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定した金融商品」は、「純損益を通じて公正価値で測定する金融商品」の中で、商品のタイプに基づき更に分類されている。
  - o IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」は、貸借対照表に重要な変更をもたらすことなく適用された。

以上の変更による主な影響は、2017年度登録書類の初回改訂にて詳細が開示されている。



## 代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示

代替的な業績指標	定義	使用理由
事業部門営業収益	<p>国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の営業収益の合計(なお、国内市場部門の営業収益には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3 を含む)</p> <p>BNP パリバ・グループ営業収益 = 事業部門営業収益 + コーポレート・センター営業収益</p> <p>調整後のグループ営業収益は「コア事業別業績」の表で表示</p>	BNP パリバ・グループの業績を表す指標
PEL/CEL の影響を除く営業収益	<p>PEL/CEL による影響を除く営業収益</p> <p>調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示</p>	PEL/CEL 口座から発生するリスクに対して、口座の存続期間全体にわたり引当金が設定されるが、これらの変動が及ぼす影響を除いた上で、当期の営業収益を表す指標
プライベート・バンキングの 100%を含む リテールバンキング事業の損益計算書	<p>リテールバンキング事業の損益計算書であり、プライベート・バンキング業務の損益計算書の全部を含む</p> <p>調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示</p>	リテールバンキング事業の業績を表す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む(プライベート・バンキングは、リテールバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、ウェルス&アセット・マネジメントに損益を配分する前である)
IFRIC 第 21 号の影響を除く営業費用の推移	<p>IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を排除した、営業費用の推移</p> <p>IFRIC21 による影響の詳細は、決算資料の「IFRIC 第 21 号に基づく税金および拠出金の内訳」にて開示</p>	IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を除く、第 1 四半期営業費用の推移を表す指標 (各事業年度に発生するほぼ全額を、第 1 四半期に計上)
リスク費用÷期首顧客向け貸出金残高 (単位:bp)	<p>リスク費用(単位:百万ユーロ)を期首の顧客向け貸出金残高で除したもの</p> <p>詳細な算定方法については、決算資料に添付された「貸出金残高に関わるリスク費用」にて開示</p>	事業体が負うリスクレベルの指標であり、貸出金残高を分母として算定し、%で表示
一時項目を除く株主帰属純利益	<p>一時項目を除いて算定された株主帰属純利益</p> <p>一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」にて開示</p>	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバ・グループの純利益を表す指標。排除される項目の主なものに、事業改編および再編費用がある
自己資本利益率 (ROE)	<p>ROE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示</p>	BNP パリバ・グループの自己資本利益率を表す指標
有形自己資本利益率 (ROTE)	<p>ROTE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示</p>	BNP パリバ・グループの有形自己資本利益率を表す指標



## 比較分析 - 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2 会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

### 注：

**営業費用：** 従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている

**事業部門：** 以下の 3 部門から成る：

- **国内市場部門：** フランス国内リテールバンキング（FRB）、BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB））を含む
- **国際金融サービス部門（IFS）：** 欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業（CIB）：** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、セキュリティーズ・サービス部門を含む

事業成長の一方で、不利な為替の影響および前年同期とは対照的な欧州市場の低迷 .....	2
リテールバンキングおよびサービス事業 .....	4
国内市場部門 .....	4
国際金融サービス部門 .....	8
ホールセールバンキング事業 ( CIB ) .....	11
コーポレート・センター .....	12
財務構造 .....	13
連結損益計算書 .....	14
2018 年度第 1 四半期 – コア事業別業績 .....	15
連結四半期業績の推移 .....	16
連結貸借対照表 – 2018 年 3 月 31 日現在 .....	25
代替的な業績指標 ( ALTERNATIVE PERORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場 庁 ( AMF ) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示 .....	27

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。2018 年度に関わる財務諸表は、国際財務報告基準 ( IFRS ) の改訂基準である IFRS 第 9 号「金融商品」に基づき作成されていますが、過年度の数値については、同基準が認めるように、当グループは修正再表示を行わないことにしました。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス ( Supervisory Review and Evaluation Process : SREP ) 」は欧州中央銀行 ( ECB ) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生じる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。